

鎌いろはの清書いたし候よし。

同年九月十六日

鎌之助手習に行と、八田紋兵衛云、鎌こ

はぜ釣につれて行ぜやと云と、手習どころか一散に家へ帰り、紋兵衛さが釣につれて行なるから、蛤買ふて来てくんなへと云故、水車へ行買ふてくる。留五郎が蛤を細かに切てやるやら、おぼぶが弁当飯を拵ふやら、大騒して頼んでやつたげな。

同年十一月十四日

鎌之助大学珍らしく読む。

一八四四年一月二日（鎌之助八歳）

鎌之助書初の紙おぼぶ買て来る。

同年一月六日

鎌之助、いつの間にか脇差の留を取、砥石を持出しとぐとて、右の手の親指のふしの処を少し切、したゝか叱られ大にこまる。悪い奴えゝ気味じや勝手にしろと、お婆井戸端の血を流し塩を蒔。奴息の音ころしてゐる。即効紙を張てやると直に遊びに出る。大腕白故手にか足にか少しづゝのきずの絶ることなし。

同年二月三日

鎌明日より丸山へ手習に遣すつもり。

同年四月三日

鎌之助今朝は早く起し丸山へ遣す。早く

戻り今朝は第一番に行たと歎ぶ。

同年五月三日

鎌今朝は当番だと夜前云故早く起す。

同年七月五日

鎌、二階より石取車を下し、平治に赤紙にて幕をこさへてもらひ、提灯もこしらふてもらふ。明王院に幣束と七五三も切てもらひ、夕方までに出来上り候故、今日は手習より帰り、内に居通しだけな。

同年九月十二日

鎌朝に行帰るとのろし入置箱持出す故、

おぼぶ云には又箱を持出す。手習から帰るまでに御じいさに赤い紙と青い紙とついでもらつて置くから、書物をふくしやれと云。大学などはふくしたことがなへから大学をふくするがよかるふと云改漸大学をよむ。大分忘れたところあり。毎日持て行ながらその様なことがあるものかと呶つても、一向平気な顔してゐる。

(つづく)

幼児の教育 第七十六巻第十号

十月号 ◎ 定価二〇〇円

昭和五十二年 九月二十五日 印刷

昭和五十二年 十月 一日 発行

112 東京都文京区大塚二ノ一ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 津 守 真 発行者

112 東京都文京区大塚二ノ一ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

108 東京都港区三田五ノ二二ノ一

印刷所 図書印刷株式会社

101 東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京九一一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所 フレーベル館にお願いいたします

※万一製品不良本がございましたら、おとりかえいたします。